

令和 6 年度

市政モニターアンケート調査結果
【リユース・食品ロスについて】



長 崎 市
廃棄物対策課

1. 調査の目的

私達は資源を守り大切に作る社会の実現のため、ごみを削減、資源化する取組として「4R」（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）を推進しています。今回は、その中でのリユースと食品ロスについての市民の皆様の興味、関心と日常での取組について意識していただくため、現状の把握をすることを目的として調査を行いました。

2. 調査の概要

調査期間：令和6年11月6日 ～ 令和6年11月21日

送付数：269人

回答率：88.1%（237人）

（郵送回答 152人 インターネット回答 85人）

3. 調査結果

【リユースの認知度について】

4Rのうち「リユース」を知っているかという質問でしたが、3分の2は知っているとの回答でした。しかし、60代、70代では50%程度の方は知らないと回答しており、幅広い年代に認知してもらうよう注釈も交えながら周知する必要があることが分かりました。

【リユースの取組について】

リユースをしていると答えた人は約6割で、その年代毎の割合は年代が高い方が年代が低い方と比べて低いです。リユースをしている人のうち、月に1回以上リユースをしていると答えた人が半数を超えました。リユースを1度でも経験することで、リユースが日常の選択肢のひとつとなっていることがうかがえます。

【地域特化型掲示板「ジモティー」、リユース倉庫きばちの利用について】

掲示板「ジモティー」を利用したことがある人は全体の1割に満たず、リユースをしたことがあると回答した人の多くはジモティー以外の手段でリユースをしていると推測されます。また、令和6年6月から「ジモティー」を活用し、粗大ごみからピックアップしたリユース品を無償譲渡する「リユース倉庫きばち」については知っていると答えた人は1割程度であり、今後の広報等により周知し改善を図ります。

【家庭での食品ロスについて】

家庭で発生する食品ロスについて、一番多いのは「賞味期限が切れた」ものが40%近くです。買い物時の工夫、冷蔵庫内の整理や賞味期限が切れる前にフードドライブを利用するなど食品ロスを発生させない取組のさらなる周知が必要です。

一方で「食品ロスは発生していない」との回答が約25%あり、家庭内での調理、保存方法の工夫により無駄なく、消費している人もいました。

家庭で捨てがちな食品は、生鮮食品が一番多く、約4割を占めています。買い物前に冷蔵庫の中をチェックするなどの工夫を分かりやすく伝えるよう改善を図ります。

【フードドライブと食品ロス削減の取組について】

フードドライブに食品を寄付したことがあるとの回答が10%未満となり、フードドライブの認知度に比べると割合が低く、食品ロスの発生状況で「賞味期限が切れた」や「買いすぎ、もらい過ぎで使い切れなかった」と回答した人と比べて食品を寄付したことがないと回答した人が多い結果となりました。一方でこれからは寄付したいとの回答も13%以上となり、フードドライブへの寄付について関心のある方がいらっしゃる事が分かりました。

食品ロスの削減のためには、料理の量や買い出しの量などを意識することは、重要なことであり、多くの方がその認識をもち取り組まれている結果でした。今後も継続して取り組んでいただくため、さらに効果的な周知、啓発を行っていきます。

4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入して、小数点第1位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても100パーセントに合致しない場合があります。

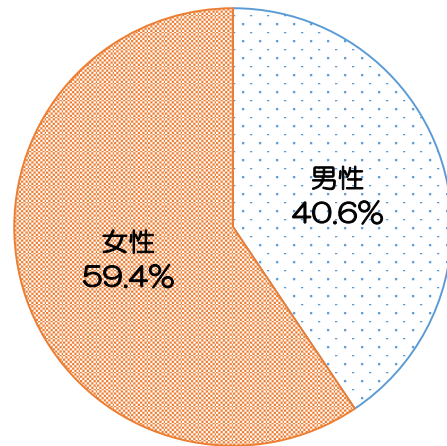
また、複数回答可とした設問においては、合計が100パーセントを上回る場合があります。

なお、回答者数の異なる問については、回答者の数を「N=〇〇人」で表現しています。

問1 あなたの性別をお答えください。

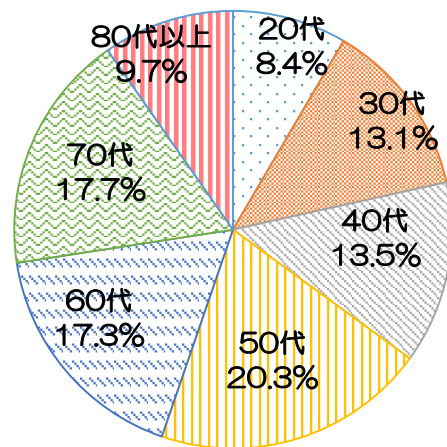
選択肢	回答者数	割合
男性	95 人	40.6%
女性	139 人	59.4%
合計	234 人	100.0%

(無回答 3 人)



問2 あなたの年齢を選択してください。

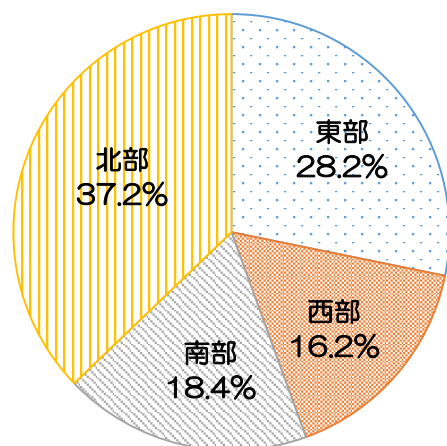
選択肢	回答者数	割合
20 代	20 人	8.4%
30 代	31 人	13.1%
40 代	32 人	13.5%
50 代	48 人	20.3%
60 代	41 人	17.3%
70 代	42 人	17.7%
80 代以上	23 人	9.7%
合計	237 人	100.0%



問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	66 人	28.2%
西部	38 人	16.2%
南部	43 人	18.4%
北部	87 人	37.2%
合計	234 人	100.0%

(無回答 3 人)

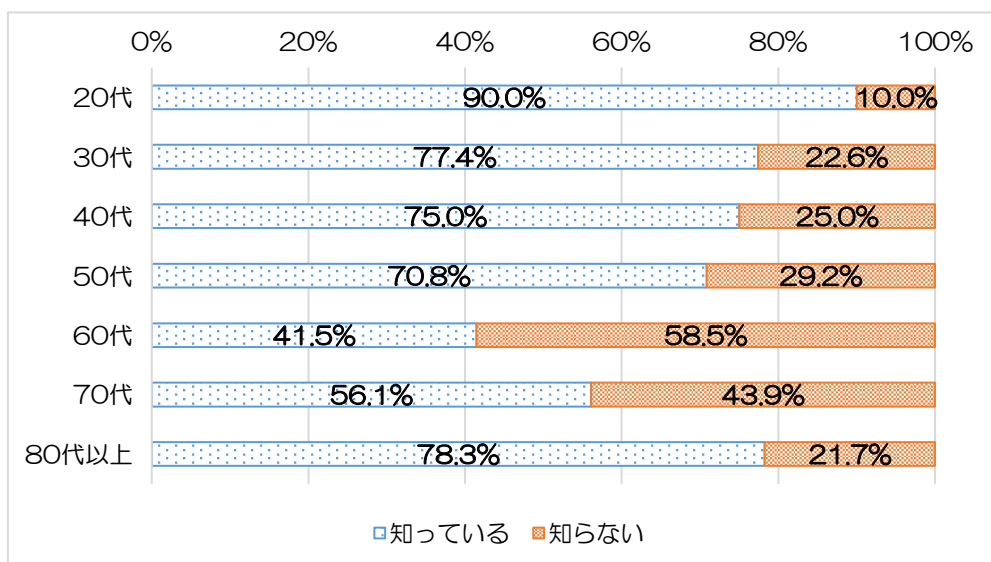
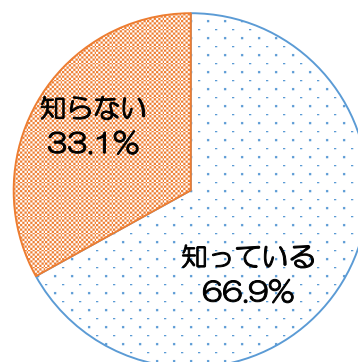


※ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問4 ごみ減量化のキャッチフレーズに4Rというものがあります。4Rのうち「リユース」の意味を知っていましたか？（当てはまるものを一つ回答）

選択肢	回答数	割合
知っている	158	66.9%
知らない	78	33.1%
合計	236	100.0%

（無回答 1人）

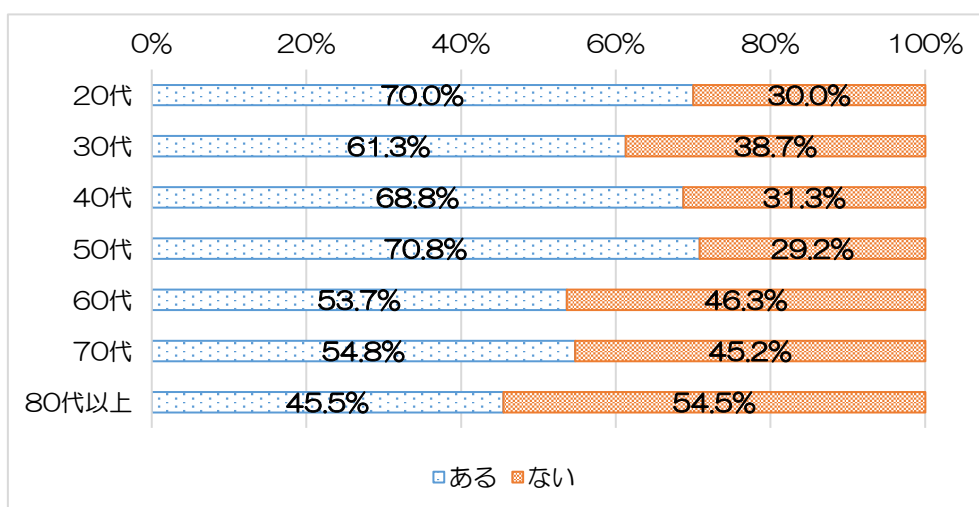
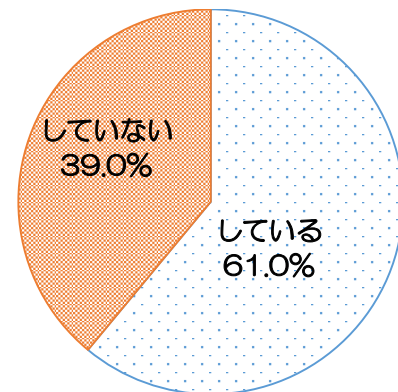


4Rのうち「リユース」を知っているかという質問でしたが、3分の2は知っているとの回答でした。しかし、60代、70代では50%程度の方は知らないと回答しており、幅広い年代に認知してもらうよう注釈も交えながら周知する必要があることが分かりました。

問5 日常生活のなかで「リユース」となることをされていますか？（当てはまるものを一つ回答）例：人におさがりをあげる、リサイクルショップでモノを買う、フリマアプリを利用する等

選択肢	回答数	割合
している	144	61.0%
していない	92	39.0%
合計	236	100.0%

（無回答 1人）

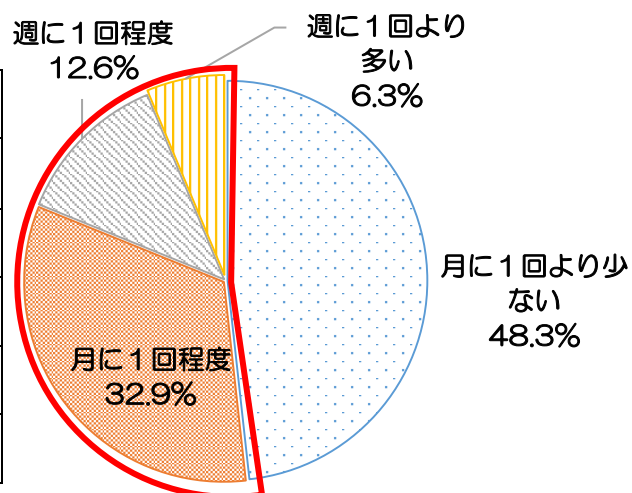


リユースをしていると答えた人は、約6割でした。リユースしていると答えた人の割合は、年代が高い方が年代が低い方と比べて低く、年代が高い方が利用しやすいリユース方法を周知啓発する必要があると分かりました。

問6 問5で「している」と答えた方にお尋ねします。頻度はどれくらいですか？
（当てはまるものを一つ回答）

選択肢	回答数	割合
月に1回より少ない	69	48.3%
月に1回程度	47	32.9%
週に1回程度	18	12.6%
週に1回より多い	9	6.3%
合計	143	100.0%

（無回答 1人）

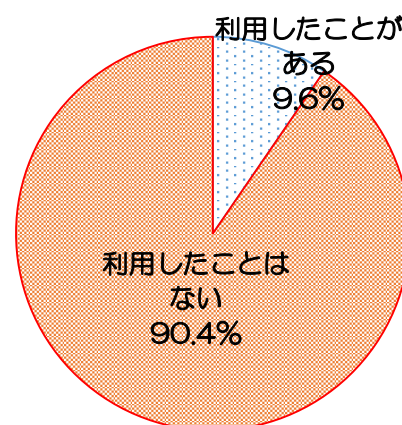


リユースをしている人のうち、月に1回以上リユースをしていると答えた人が半数を超えました。リユースを1度でも経験することでリユースが当たり前の選択肢となっていることがうかがえます。

問7 インターネット上の地域特化型掲示板「ジモティー」を利用したことはありますか？（当てはまるものを一つ回答）

選択肢	回答数	割合
利用したことがある	22	9.6%
利用したことはない	208	90.4%
合計	230	100.0%

（無回答 7人）

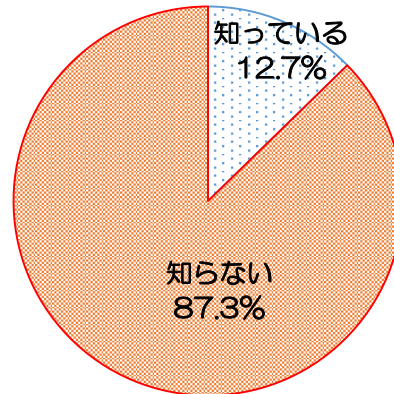


掲示板「ジモティー」を利用したことがある人は全体の一割に満たなかったです。ここからリユースをしたことがあると回答した人の多くはジモティー以外の手段でリユースをしていると推測されます。

問8 長崎市では「ジモティー」を活用し、粗大ごみからピックアップしたリユース品を無償譲渡する事業「リユース倉庫きばち」を実施しています。「リユース倉庫きばち」を知っていましたか？（当てはまるものを一つ回答）

選択肢	回答数	割合
知っている	30	12.7%
知らない	206	87.3%
合計	236	100.0%

（無回答 1人）

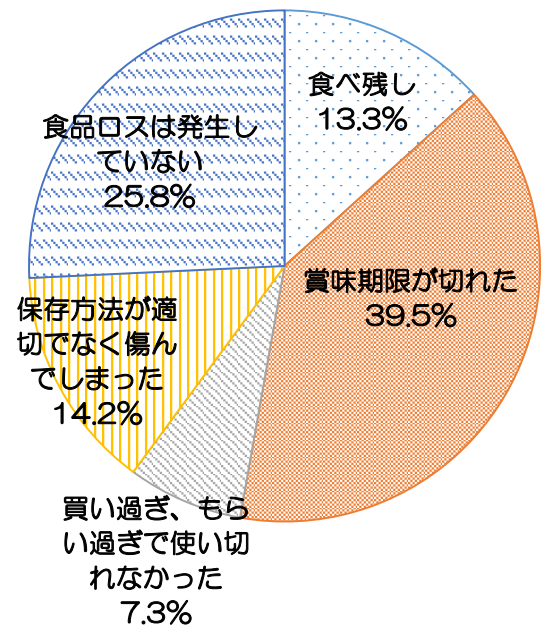


令和6年6月から運用を開始した「リユース倉庫きばち」ですが、知っている人と答えた人は約1割でした。今後広報誌やLINE、テレビなど幅広い媒体で繰り返し周知し、多くの人に認知してもらえるように改善を図ります。

問9 まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことを「食品ロス」と言います。あなたのご家庭で、一番多いと考えられる食品ロスは何か。（当てはまるものを一つ回答）

選択肢	回答数	割合
食べ残し	31	13.3%
賞味期限が切れた	92	39.5%
買い過ぎ、もらい過ぎで使い切れなかった	17	7.3%
保存方法が適切でなく傷んでしまった	33	14.2%
食品ロスは発生していない	60	25.8%
合計	233	100.0%

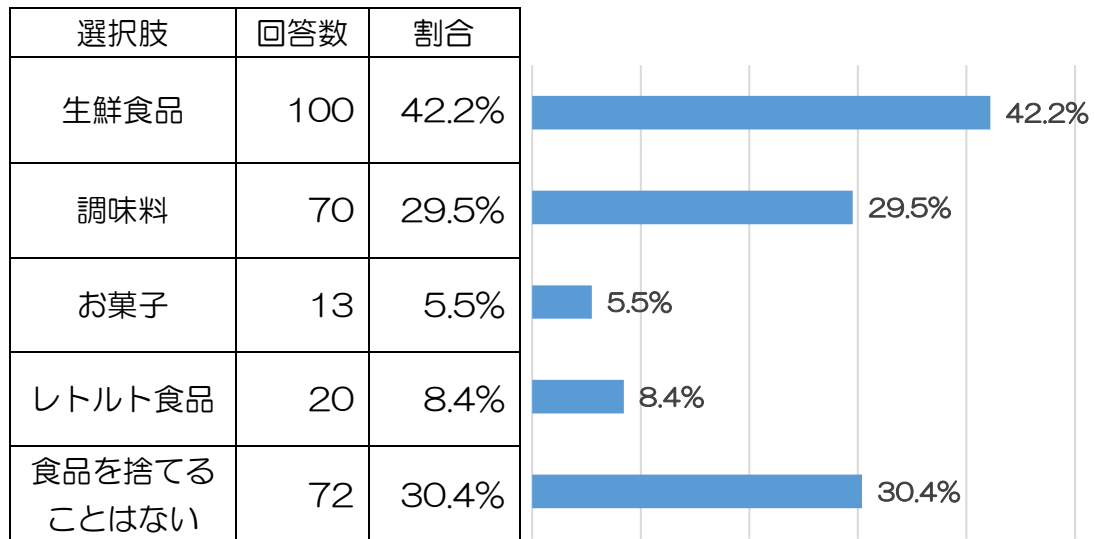
(回答者数 237 人 有効回答数 233)



家庭で発生する食品ロスについて、「賞味期限が切れた」ものが一番多く、40%近くです。買い物時の工夫、冷蔵庫内の整理や賞味期限が切れる前にフードドライブを利用するなど食品ロスを発生させない取組のさらなる周知が必要です。

一方で「食品ロスは発生していない」との回答が約 25%あり、家庭内での調理、保存方法の工夫により無駄なく、消費できている人もいました。

問 10 あなたのご家庭で、捨てがちな食品は何ですか。（複数回答可）

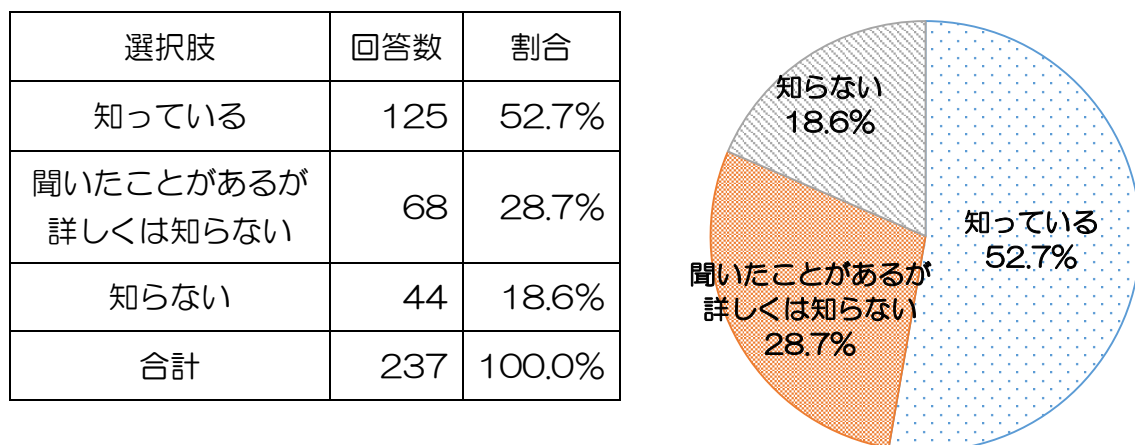


（回答者数 237 人 有効回答数 275）

家庭で捨てがちな食品は、生鮮食品が一番多く、約4割を占めています。買い物前に冷蔵庫の中をチェックするなどの工夫を分かりやすく伝えるよう改善を図ります。

問 11 まだ食べられる食品を集めてフードバンク団体へ寄付し、フードバンク団体を通じて必要な所へ届ける「フードドライブ」という活動があります。

あなたは「フードドライブ」を知っていましたか。（当てはまるものを一つ回答）

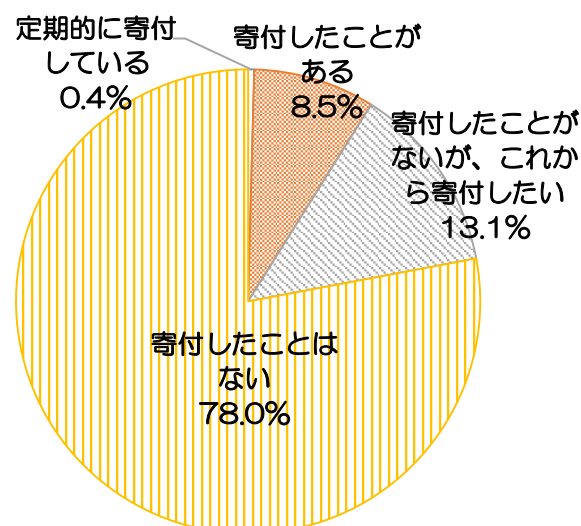


フードドライブの認知度については、知っているが約 53%と半数を超えており、「聞いたことがあるが詳しくは知らない」を含めると 8 割を超えます。これは、市内の大型スーパーやコンビニエンスストアでもフードドライブを実施する店舗が増えていることや、市の広報に定期的に掲載していることによりフードドライブを目にする機会が増えていることなどにより、活動の知名度が上がっているものと考えます。

問 12 フードドライブに食品を寄付したことがありますか。(当てはまるものを一つ回答)

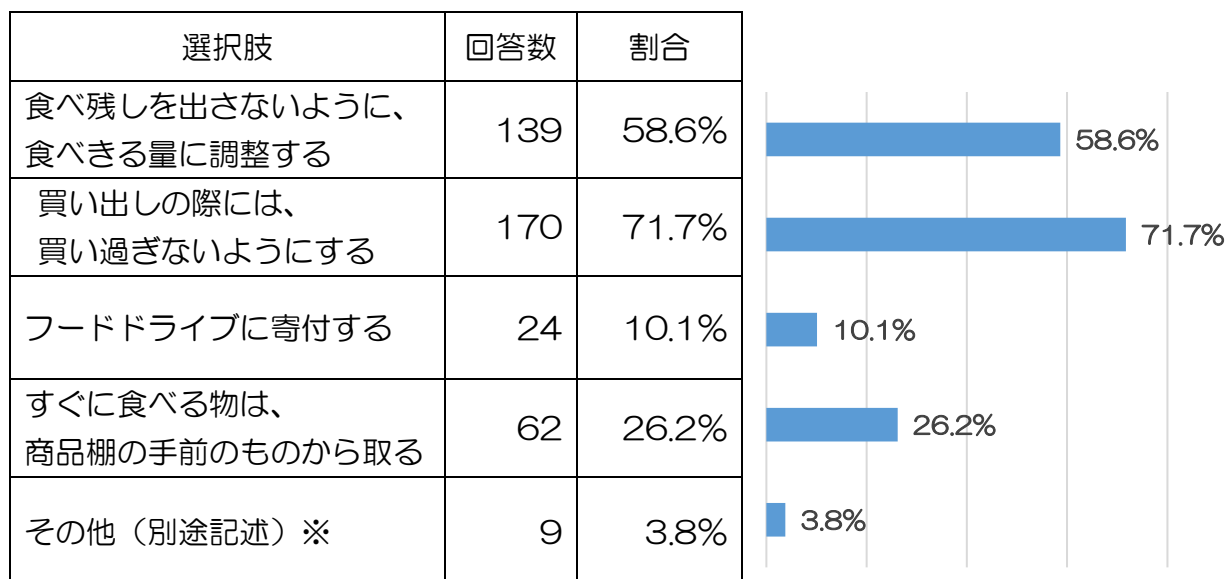
選択肢	回答数	割合
定期的に寄付している	1	0.4%
寄付したことがある	20	8.5%
寄付したことがないが、これから寄付したい	31	13.2%
寄付したことはない	184	77.9%
合計	236	100.0%

(無回答 1 人)



フードドライブに食品を寄付したことがあるとの回答が 10%未満となり、フードドライブの認知度に比べると割合が低く、また、問 9 の食品ロスの発生状況で「賞味期限が切れた」や「買いすぎ、もらい過ぎで使い切れなかった」と回答した人と比べて「寄付したことがない」と回答した人が多い結果となり、よりフードドライブについての周知および啓発を進めていく必要があることがわかりました。一方でこれからは寄付したいとの回答も約 13%以上となり、フードドライブへの寄付について関心のある方がいらっしゃるということが分かりました。

問 13 食品ロスを削減するために、取り組んでいる、これから取り組みたいと思っていることはなんですか。（複数回答可）



（回答者数 237 人 有効回答数 404）

※その他の回答

- なんとかして食べる
- 企業食品廃棄を大きくネットやメディアで取りあげる。
- もらったものは早めに食べる
- 冷凍保存
- すぐ食べる場合、賞味期限の近い食品から購入する
- 食品は値引きのものを優先的に購入している

など

食品ロスの削減のためには、料理の量や買い出しの量などを意識することが、重要なことです。多くの方がその認識をもち、取り組んでいただいているとの回答でした。取組については、継続して行っていただく必要があるため、今後もさらに食品ロス削減のために効果的な周知、啓発を行っていきます。